

原医研のシンボルマーク決まる

原医研(原爆放射能医学研究所)では、かねて学校教育学部の河野通男教授にシンボルマークの作製を依頼していたが、去る一月十二日の教授会でこのシンボルマークが承認された。

シンボルマークのRIRBMは研究所の英文頭文字で、同研究所が放射線科学と医学により構成されていることを示す。中央のRはRadicalの頭文字に、鳩の形を組み入れ図案化したものである。鳩は、伝言鳩を表し、国際間の情報伝達及び国際化の意味を表現する。さらに、IはInstituteのIを意味すると同時に、InternationalのIをも意味し、Iの上のドットは、Instituteで発信された情報の種子を、伝言鳩によりInternationalに伝達することを表現している。



前期発表 二四五一名が合格

三月九日(木)、東千田キャンパスをはじめ各キャンパスで前期日程の合格者の発表が行われた。合格者の内訳は、二四五一名のうち県内出身者が二三%、県外出身者が七七%となっており、また、女子の合格者は九八二名で全体の四〇%を占めている。

サークルの胸上げ、報道陣のカメラのフラッシュ、若者独特の声高のトーン、それらは忍従に満ちた厳冬に終わりを告げた。東千田キャンパスでの春の風物詩であった合格発表も今年限りとなった。

広大卒業式、三六〇四名が社会に巣立つ

三月二十四日(金)午前十一時から、東広島運動公園体育館で平成六年度の卒業式が行われた。学部卒業生二七一九名、専攻科修了生二十名、

大学院博士課程前期及び修士課程の修了生八六五名が学窓を巣立った。

今年は、昨年来の不況より一段と厳しく、三月十五日現在で、学部卒業生が七九・六%、大学院博士課程前期(修士課程)で八八・五%の就職率となっており、昨年よりさらに二・三ポイント低下している。

一方女子も、学部卒業生で七二・三%と一段と厳しさを増しており、寒風吹きすさぶ中の卒業式となった。

三月二十七日(月)には、東千田キャンパス内の大学会館大集會室で博士学位記号授与式が行われ、一五八名に博士学位記号が授与された。

附属学校各校と附属幼稚園で卒業式・卒園式

三月一日の附属高等学校をはじめとして、十一校で卒業式、卒園式が行われた。

附属高等学校の卒業式では、松村幹男校長が二〇六名の卒業生への餞の言葉として校歌を引用し、その中の一節「磨ける心、鍛える腕、たゆまず努めん」を人生の指針として生きたことを説いた。

国際シンポに広大から二件採択

文部省は、国立大学と大学共同利用機関から申請のあった平成七年度開催の国際シンポジウムのうち八十二件を採択した。

この制度は、世界の第一線級の研究者の参加を得て、内外の研究者による国際シンポジウムを開催することにより、研究水準の向上や学術の国際交流に寄与することを目的としており、本学からは二件が採択された。

採択された国際シンポジウムは次のとおり。

- 高エネルギー原子核衝突における量子干渉効果国際シンポジウム
- 四月十八日(土)二十日 開催地：広島市 責任者：鷲見義雄理学部教授
- 「アジア時代における

日本文化・外交のあり方と国際協力」十一月二日(土)三日 開催地：広島市 責任者：山下彰一大学院国際協力研究科長

告知板

★日本社会保障法学会 平成七年度春季総会

日本社会保障法学会は、会員四百名を擁する社会保障分野の学会である。誕生したのは比較的最近のことであるが、活発な研究活動を展開している。

平成七年度の春季大会は、「障害者の雇用・就労保障等をめぐる諸問題」をテーマに広島大学西条キャンパスで開催される。雇用・就労保障をはじめ、広く障害者をめぐる問題を検討しようというものであり、山田耕三教授(香川大学)を中心とするグループが報告を担当する。

日時 五月二十日(日)午前十時～午後五時
場所 法経二五号教室(西条キャンパス)
問い合わせ先：
法学部 辻 秀典
☎ 〇八二四―二四一七二〇〇
総合科学部 田村 和之
☎ 〇八二四―二四一六四一〇

★日本労働法学会第九〇回大会

日本労働法学会は、会員七百名を擁する労働分野の学会である。大会は、その時々の焦点の理論的、実際の課題を統一テーマに、シンポジウム形式で年二回開催されている。

平成七年度の春季大会は、「産業界をめぐる法的諸問題」をテーマに広島大学西条キャンパスで開催される。労働災害の防止・快適な労働環境の形成に重要な役割を演じている「産業界」に検討のメスをいれようというものであり、保原喜志夫教授(北海道大学)を中心とするグループが報告を担当する。

日時 五月二十一日(日)午前十時～午後五時
場所 法経二五号教室(西条キャンパス)
問い合わせ先：
法学部 辻 秀典
☎ 〇八二四―二四一七二〇〇
総合科学部 甲斐 祥郎
☎ 〇八二四―二四一六四〇八

★第二回ファカルティ・デイペロツ プメントに関する講演討論会

標記講演討論会を左記のとおり開催します。ファカルティ・デイペロツ プメントとは、高等教育の教育環境能力の向上を意味します。大学教育改革の中で、最も重要な課題の一つとされており、先生方をはじめ、多数御出席ください。

日時 平成七年四月七日(金)
午後一時三十分～午後四時
場所 工学部三〇講義室
講師及び演題
一 浅井彰二郎氏 (附日立製作所基礎研究所長)
「創造性を培うために」
二 中村信人教授 (工学部自己点検・評価委員会委員)
「学生による教育 評価の分析(中間報告)」

討論者 高萩 隆行 教授
藤久保昌彦 助教授
連絡先 工学部人事係
(☎ 〇八二四―二四一七五〇七)